

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		24,020	t-CO <sub>2</sub>
① （温を除く 二室除く 酸効く 化果 炭ガ 素換 排 算 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		24,020

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	24,020	t-CO <sub>2</sub>	23,779	t-CO <sub>2</sub>	1.0

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排出量	563.6	t-CO <sub>2</sub> / 10億円	558	t-CO <sub>2</sub> / 10億円	1.0

（2）目標設定の考え方

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の実践 冷暖房	冷暖房の適正化	空調フィルターの掃除等 効率の良い運転の為の 点検・保守管理の実施
省エネルギー・省資源の実践 照明	使用していない部屋や稼働時間外の消灯を徹底する。	省エネルギー巡回の施工。 人感センサーの設置。 LEDに仕様変更。
フロンガス等の 排出抑制	地球温暖化係数が低い物資へ変更。	旧冷媒仕様の空調機更新
自動車等 輸送機関に 関する対策	配送コースの見直しによる走行距離の短縮を図り燃料使用量の削減	ハイブリット車の増車
廃棄物の排出抑制	分別廃棄物の徹底と再資源化を図る。	
省エネルギーによる巡回	水・電気・ガスの使用量の確認	一日の使用量産出
省エネルギーによる自主点検	各所スチームトラップの動作点検	年一回動作点検 不良箇所は随時交換

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--